

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 17 年第 2 週(1 月第 2 週 1/10~1/16)

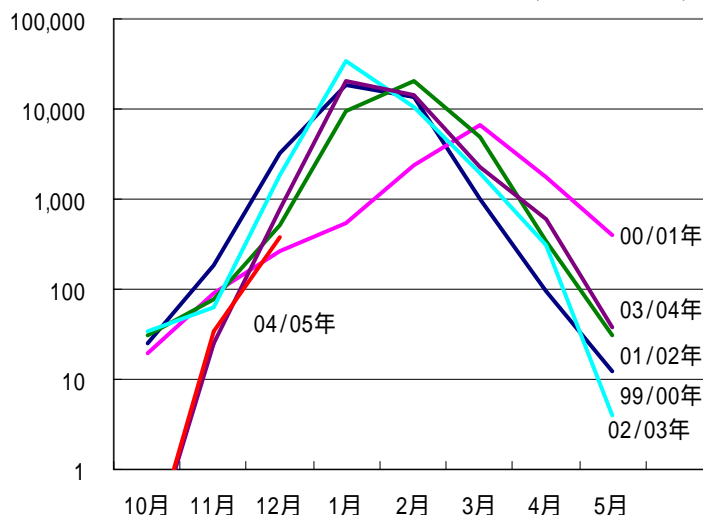
(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先:052-910-5619 E-mail:eiseiken@pref.aichi.lg.jp

トピックス

インフルエンザ

インフルエンザ定点の月別患者報告数(片対数グラフ)



今は「寒中」のど真ん中、二十四節気の一つ「大寒」を過ぎて一年で最も寒い時期となりました。インフルエンザの報告も増えていきます。ただ幸いに、昨年11月から1月16日までの愛知県内のインフルエンザ定点(195の医療機関)からの報告数は738件と、過去6シーズンの中では、2000/2001年と並んで少ない報告数となっています(下の表参照)。1999年10月から2004年5月までの5回のインフルエンザシーズン(10月から翌年5月まで)の平均定点報告数は34,717人で、2000/2001年が報告の最も少ない年、2002/2003年が最も多い年でした。定点報告数を対数グラフで見ると(グラフ参照)、報告数のピークは1月に多く、報告の少なかった2000/2001年は流行の立ち上がりが遅く、3月にピークがありました。今シーズンのインフルエンザが2000/2001年と似たパターンになるかどうかは分かりませんが、願わくは、このまま大きな流行がない状態で春を迎えたいものです。ただし、油断は禁物。武道では寒稽古の季節ですが、我々もインフルエンザのパンデミック(世界的大流行)に備えて、日ごろの稽古(うがいと手洗いの励行と、今シーズンは少し遅すぎる嫌いもありますがワクチン接種による個人防衛、それに加えて保健・医療・教育・行政など各機関の連携による社会防衛など)を怠らないようにいたしましょう。

インフルエンザ定点患者報告数

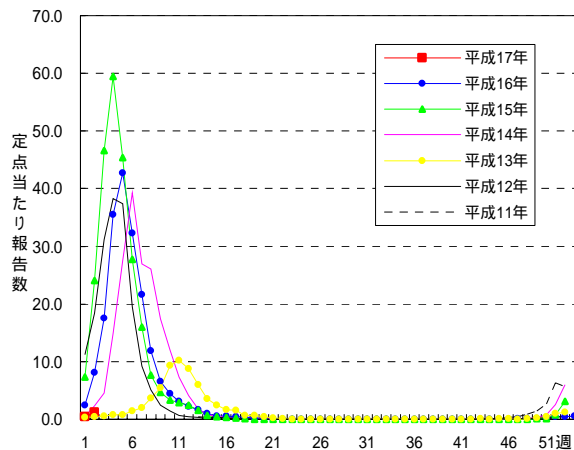
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	期間合計
99/00年	25	183	3,267	18,811	13,522	1,015	96	12	36,931
00/01年	19	90	260	546	2,413	6,502	1,764	391	11,985
01/02年	31	77	524	9,545	20,937	4,822	350	31	36,317
02/03年	35	63	1,854	34,902	10,710	1,958	310	4	49,836
03/04年	0	25	793	20,742	14,104	2,217	599	37	38,517
04/05年	0	34	383	321					738*

*1月16日までの報告数

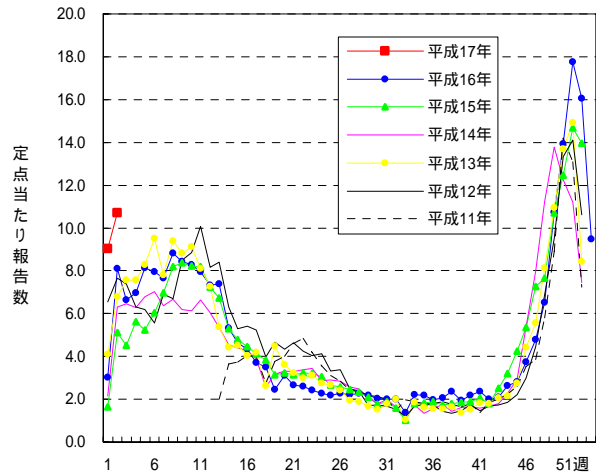
インフルエンザ関連情報リンク：http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/inf_links.html

流行状況

インフルエンザ



感染性胃腸炎



愛知県感染症情報 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>)をご覧ください。

定点の先生方からのコメント

尾張西部地区

感染性腸炎軽症ですが多いです。
インフルエンザは今週もありませんでした。

【一宮市 あさのこどもクリニック】
インフルエンザ今期はじめて 18 歳男 B 型
感染性胃腸炎流行中
ヘルペス性歯肉口内炎 男 1 歳

【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌 O12 歳女、3 歳女、6 歳男、
55 歳女

病原性大腸菌 O8 1 歳女
病原性大腸菌 O18 8 歳男
病原性大腸菌 O25 4 歳男

アデノウイルス、ロタウイルスが大変多い。
ノロウイルスと思われる患者も多発しております。尚病原性大腸菌患者も、根強くみられております。

【尾西市 城後小児科】
インフルエンザ A 8 歳男

【一宮市 平谷小児科】
インフルエンザ 4 名ありました。
A 型 1 名 (ワクチン接種歴あり)。
B 型 3 名 (内 1 名、ワクチン接種歴あり)。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

大口町で A 型インフルエンザの方がいました (母と子)。その後、父と同朋にもうつりました。

B 型は犬山では見られなくなりました。

ノロウイルスと思われる胃腸炎は犬山地区では下火になりましたが、12 月にあった保育園での集団発生の状況を見る限り、飛沫感染と思われます。(12 月に報告した事例です。)

手足口病も見られます。

【犬山市 武内医院】

感染性胃腸炎多し (Rota(-) Adeno(-) です)。

ムンプス続発中

インフルエンザは A 型 2 case (兄弟例)
B 型 (3 歳男) 1 case あり。

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
胃腸かぜが未だ続いて居ります。

【春日町 丹羽医院】

A 型インフルエンザ 2 人
B 型インフルエンザ 3 人

【七宝町 医療法人村上医院】

尾張東部地区

ウイルス性胃腸炎が多い。

アデノウイルス感染もあり。

インフルエンザはB型1名のみ。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザは全くみられません。

溶連菌感染症が増えてきました。

マイコプラズマ感染症、アデノウイルス感染症もみられます。

嘔吐・下痢は落ち着いています。

その他突発疹、流行性耳下腺炎

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

58歳男 病原大腸菌O25、感染性腸炎

【豊明市 豊明団地診療所】

相変わらず胃腸炎多いです。

【春日井市 春日井市民病院】

今季初めてのA型インフルエンザが1例ありました。

【小牧市 志水こどもクリニック】

感染性胃腸炎があいかわらず多く、インフルエンザB型がまだでております。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

胃腸カゼ続発中

水痘増加

ムンプス少々

インフルエンザなし

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

インフルエンザA1人ありました。

感染性胃腸炎の流行は続いています。

アデノウイルス感染症も2例ありました。

【春日井市 かちがわ北病院】

感染性胃腸炎はやや減少した感じです。

【春日井市 竹内医院】

ムンプス小流行

インフルエンザAみられる。

感染性胃腸炎(ノンロタ)流行

【小牧市 小牧市民病院】

感冒性胃腸炎 流行

手足口病、水痘症 散発

インフルエンザ なし。

【南知多町 医療法人大岩医院】

先週末よりインフルエンザB型とインフルエンザA型も陽性で検出されるようになりました。

【半田市 医療法人いとう小児科】

インフルエンザは迅速キットにていずれもB型です。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳男 イムノカードSTストレップA(+)

1歳女 病原大腸菌O86a

1歳男 病原大腸菌O6

【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】

1歳女 病原大腸菌O6

【豊田市 すくすくこどもクリニック】

B型のインフル 1例出ました。

【岡崎市 花田こどもクリニック】

9歳女 インフルエンザB(予防接種未接種)

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科スズキ医院】

5歳男 病原性大腸菌 O18 VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

10歳女 マイコプラズマ肺炎

インフルエンザA型2名(ワクチン接種歴なし)

【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

当院で今シーズン初めてのインフルエンザが出ました。B型でした。

【岡崎市 粟屋医院】

5歳男 インフルエンザB型(ワクチン接種済)
ラピッドテストFLUAB B(+)

【岡崎市 医療法人永坂内科医院】

B型インフルエンザ2名

水痘、ムンプス目立ちます

【碧南市 永井小児クリニック】

インフルエンザ総検体数 62 男子7歳、女子20~29、30~39歳でB型各1

【安城市 愛知県厚生連安城更生病院】

インフルエンザ A3人、B4人

【知立市 宮谷クリニック】

感染性胃腸炎、ムンプス、水痘が流行しています。

インフルエンザがA、B型共みられました。

【三好町 三好町民病院】

インフルエンザB 7歳男、3歳女

【西尾市 やすい小児科】

RSウイルス感染症 2ヵ月女2例、4ヵ月男、11ヵ月男、1歳男

【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

4 歳男、13 歳女カンピロバクター
【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
1 歳男マイコプラズマ肺炎
【豊橋市 野村小児科】
インフルエンザはA型 5 例、B型 1 例の計 6
例でした。
【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

溶連菌感染症は家族内発生です。
【田原市 かわせ小児科】

一～三類感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

腸チフス

<関連リンク> 二類感染症
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#2-5>)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	菌型等	備考
1	瀬戸	55	女	12/12	12/28	1/10		推定感染地域 不明

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況 - 愛知県(名古屋市を除く。) -

アメーバ赤痢 1 例 (推定感染地域: 国内、推定感染経路: 不明)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#5-1>)

* つつが虫病 1 例 63 歳 (1 週分の追加報告)
(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokede.html#4-15>)

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

暖冬とは言え、暦の上では今日は大寒。朝の出勤時には耳がちぎれるくらい寒かったり指が縮む思いに現役の小児科医の頃は掌と聴診器を外来で暖めたことを思い出したりしています。いつも貴重な情報を有難うございます。1月前半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは例年に比べて感染症は非常に少ない状況で比較的多いのはウイルス性胃腸炎と乳児の気管支炎（重症例で入院が目立つ）、ムンプスと水痘が散発、インフルエンザは殆どなく、マイコプラズマ肺炎が一定数入院、城北病院渡辺先生からはインフルエンザB陽性者が少しいるがインフルエンザAは現在のところなく、急性胃腸炎散見、嘔吐が主で便中のロタ、アデノウイルス検査が殆ど出来ず、水痘散見、アデノ陽性者がまだたまにあり、RS陽性の喘息様気管支炎の入院散見、千種区今枝先生からは感染性胃腸炎がぼつぼつ、熱だけの感冒症候群ぼつぼつ、三菱病院入山先生からは感染性胃腸炎6名と目立ち（病原性大腸菌O25が3名、O1とO86、O143が各1名）、ムンプス3名、他に嘔吐を主訴とする胃腸カゼが目立ちインフルエンザは未だなくマイコを含む肺炎5名入院、感染性胃腸炎の入院2名、7ヵ月の腸管アデノウイルス感染症の入院、RSウイルス感染症（5ヵ月）の入院各1名、中京病院柴田先生からは水痘、嘔吐下痢（要入院あり）、RS陽性の細気管支炎の入院が目立つ、労災病院山田先生からは胃腸カゼとムンプスが目立ちRSウイルス細気管支炎（入院目立つ）、インフルBの入院少々（3人ぐらい）、扁桃腺炎の入院が多いがEB、アデノではない、大同病院水野先生からはウイルス性腸炎が多く（特に当直をしていると嘔吐腹痛で受診する患者が8割位で外来の点滴では症状が軽減しなかつたり痙攣ある場合入院）、ムンプス、水痘が目立ちインフルエンザ散見（A1名、B1名）、減ってはきたがRSウイルスによる気管支炎の入院あり、とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からは感染性胃腸炎はやや減少、水痘、手足口病が散発中でA型インフルエンザウイルス感染症4例あり、江南市昭和病院西村先生からは感染性胃腸炎、水痘、A群溶連菌が目立ち咽頭結膜熱の入院とロタウイルス性胃腸炎の入院が目立つ、常滑市民病院上田先生からはロタウイルスを含む感染性胃腸炎（入院多い）、ムンプス、水痘、インフルエンザなどが目立ちRSウイルス細気管支炎、肺炎球菌による肺炎や水痘、ムンプス髄膜炎の入院も目立つとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からはインフルエンザはまだ無く、RSウイルスも含めて喘息性気管支炎が多く胃腸炎が多いがロタはまだない、加茂病院梶田先生からはインフルエンザAが1名（今シーズン初例）、RSウイルス感染症とロタ陰性の胃腸炎が多く要入院例が多いため入院数増加、手足口病が少し、水痘とムンプスは続いて流行、刈谷市田和先生からは感染性胃腸炎（嘔吐が主体、嘔吐のあと下痢するものでもロタ陰性）が目立ち、溶連菌感染症と水痘がたまにあり、インフルエンザはまだない、豊橋市からは感染性胃腸炎、溶連菌感染症、水痘などが目立つ（市内長屋先生、宮澤先生）とのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2004 年 12 月 4 日（79 巻 49 号）<http://www.who.int/wer/2004/wer7949/en/>

黄熱。ブルキナファソ：11 月 24 日、WHO に報告。同国南西部国境地帯。10 月 10 日の死亡例がセネガル・ダカールのパスツール研で診断確定。保健省と WHO 担当者が 15 例を採血・検査、地域のサーベイランス強化。発生はワクチン接種率の低い僻地に限局、今後小児の麻疹ワクチン接種と平行して住民の黄熱ワクチン接種普及強化の予定。

04 年 12 月 1 日、世界エイズデー：本年の世界エイズデーに WHO は抗 HIV 薬投与が必要な HIV 感染女性・少女に対する薬剤供給と HIV 検査強化を提言した。詳細な数字は不明であるが世界の HIV 感染者の 47% は女性・少女であると推定され、性別、年齢別の詳細な調査が急務であり、同時に女性・少女に対する虐待が重視されるべきであると WHO は強調している。薬剤供給に関しては WHO と国連エイズ計画（UNAIDS）から合同で供給態勢の政治経済的な面と倫理面について公的文書が発表されている。

エボラ出血熱（EHF）。04 年 5 月、WHO の説明書（Fact sheet）を改訂。EHF はフィロウイルスに属し 4 亜型（象牙海岸型、スーダン型、ザイール型、レストン型）があり、内 3 亜型（象牙海岸型、スーダン型、コンゴ共和国（旧ザイール）型）がヒトに病原性があり主症状は出血性高熱。西太平洋地区のレストン型はヒトでは無症状感染である。このウイルスの自然分布域はアフリカと西太平洋地区の熱帯雨林。ウイルス伝播は患者の血液、分泌液、臓器や体液との直接接触でおこる。葬儀が遺体との直接の接触機会として重視されている。チンパンジー、ゴリラ、森林カモシカなどの感染動物や死体との接触、レストン型ではカニクイザルとの接触の報告がある。患者を手袋、マスク、ゴーグルなど標準的注意（Essential Precaution）なしで扱った医療従事者が高率に感染。潜伏期は 2～21 日、突然の高熱、重症の脱力、筋痛、頭痛、咽頭痛、全身の出血と多臓器不全、白血球と血小板減少、肝障害。治療薬、ワクチンは未開発。日常の訓練と教育による医療行為上の注意が伝播の封じ込めに重要（過去 28 年間の発生の一覧表あり。スーダン、象牙海岸、ガボン、コンゴ共和国が目立つ）。自然宿主は不明。これまでヒト以外の霊長類との接触が感染源となっているが、これら霊長類もヒトと同じように自然宿主から感染した犠牲者と考えられ、現在自然な状態での宿主は何か、精力的な調査が実施されている。

11 月 25 - 12 月 2 日届出。コレラ：リベリア、ナイジェリア。

2004 年 12 月 10 日（79 巻 50 号）<http://www.who.int/wer/2004/wer7950/en/>

コレラ。ナイジェリア：04 年 12 月 3 日、WHO に同国保健省が報告。1,616 例（死亡 126）、北部カノ州で 10 月 15 日～11 月 23 日に 1,316 例（死亡 76、罹患死亡率 5.8%）、細菌学的に確定。死亡例は 2 歳以下小児と 60 歳以上の高齢者。WHO による政府の指導と国境なき医師団による予防対策実施が進められ、患者減少中。

HIV/AIDS。世界の状況：WHO と国連エイズ計画（UNAIDS）の推定では 2004 年末には HIV 感染者/AIDS 患者の生存者（PLWHA）は 3,940 万名（35.9～44.3 百万、地図あり）。全世界の 15～49 歳人口の約 1% が感染していて 1990 年代から徐々に増加、90 年代末にやや増加は落ちている（グラフあり）。04 年に世界で年間約 500 万人が HIV に感染、70 万人が 15 歳以下、男女比に地域による差が大きい。HIV/AIDS による 04 年の死亡数は全世界で 300 万、アフリカの南サハラ地区では最多の死亡原因であり、全世界では死亡原因第 4 位となっている。流行情況と抗レトロウイルス剤治療（ART）が普及していないことから途上国ではこの 5 年間の死亡率は増加中である（図あり）。特にアフリカの南サハラ地区

が世界の最大の流行地区であり、世界の女性感染者の76%がこの地区に居住している。東アフリカの一部では増加が頭打ちの国（妊婦以外にも地域住民検査と教育がすすめられている）もあるが中央・西・南アフリカでは著明に増加、流行は風土病的となっているが妊婦検査（受診率もまちまち）以外に実態把握も困難な状況となっている。アジアでは早くから流行があり、調査と対策が進んで妊婦検診受診陽性者が現在減少中のタイ、カンボジアと、現在も増加中の中国（売血者、薬剤常用者、一部に性産業従事者）、インド（南部に侵淫、マハラシュトラやタミル・ナド州の性産業従事者で50%陽性、マニプールなど東北部では薬剤常用者間に10年以上多発中）、カリブ海諸国は女性陽性者が世界第二位、感染源としては性行為感染、東欧と中央アジアではPLWHAがこの2年間で激増しており（40%増）、ロシアから始まってウクライナで急増。薬剤常用と性感染。北アフリカと中近東は大きな増加傾向はなく、西欧と北アメリカなど先進国では増加傾向はなくなった地区が多いが新規感染者は減っておらず、米合衆国ではアフリカからの、英国ではカリブ海諸国からの輸入が目立っている（以上簡単なまとめ。報告数など詳細な地区別の記載あり）。

12月3-9日届出。コレラ：ギニア、タンザニア。

愛知県感染症情報

2005年第2週(平成17年1月10日～平成17年1月16日)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県																										
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	27	230	50	210	1,948	299	23	23	118	0	0	3	0	251	0	19	0	0	4	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	22	191	39	157	1,371	220	19	19	82	0	0	2	0	189	0	16	0	0	4	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	5	39	11	53	577	79	4	4	36		1		62		3					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1		12	10	16	69	10		5	5		1		2		2			2		
海部津島	津島	7	7	2	2	1		8		2	144	9	2		3				27							
尾張中部	師勝	4	4	1	1					2	34	4							1		1					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		8	6	8	134	19			10				17		1					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	4	21	11	8	84	22		4	6				11		2					
	江南	6	6	1	2			12		8	69	15	3		5				22							
知多半島	半田	6	6	1	2	1		6	1	5	85	19	5		1				21							
	知多	7	7	2	2		2	17	1	50	58	16		1	7				25							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		16		5	32	16	3	1	15				11							
	衣浦東部	11	11	2	4	1	3	22		4	82	31		5	9				13		4					
	西尾	5	5	1	2	1	5	6	5	6	76	9	2	2	4				9							
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1		7		8	294	21	2	1	5		1		16		2			1		
	加茂	3	3		1			2	4		30	5	1		1				3							
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		25		17	75	7			8				2		3			1		
	豊川	9	8	1	2	1	8	29	1	18	97	16	1		3				8		1					
東三河北部	新城	2	2			1					8	1							1							

愛知県感染症情報

2005年第1週～第2週(平成17年1月3日～平成17年1月16日)(累計)

愛知県衛生研究所

	定点数					RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
	インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹																					
愛知県																										
愛知県 (名古屋市を含む)	195	182	35	51	13	52	321	71	346	3,593	717	45	41	201	2	0	11	2	511	1	47	0	0	9	0	0
総数 (名古屋市は除く)	125	112	24	37	12	42	259	58	263	2,539	560	41	30	146	2	0	7	1	383	1	37	0	0	9	0	0
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1	10	62	13	83	1,054	157	4	11	55		4	1	128		10					
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	3	14	15	21	105	28		7	8		1		4		2			4		
海部	津島	7	7	2	2	1		11		5	304	26	2	1	4				49		1					
尾張中部	師勝	4	4	1	1					2	78	6							1		3					
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1		10	7	13	216	43	2		12				25	1	1					
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1	9	35	20	16	181	72		4	13		3		33		5					
	江南	6	6	1	2			14	2	9	140	26	5		10			1	38		4					
知多半島	半田	6	6	1	2	1	1	6	1	9	139	44	10		5				45							
	知多	7	7	2	2		3	25	1	96	124	27		1	18				54							
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1		19		14	72	43	9	1	22	1			27		1					
	衣浦東部	11	11	2	4	1	3	35		9	148	69		11	20				28		7			1		
	西尾	5	5	1	2	1	6	10	5	7	98	28	5	2	4				16		5					
西三河北部	豊田市	8	8	2	3	1		18		11	508	67	2	2	7		1		32		3			1		
	加茂	3	3		1			2	4	2	87	11	3		2				10							
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1		30	2	25	129	24	1	1	13				4		4			3		
	豊川	9	8	1	2	1	17	30	1	24	202	44	1		8	1	2		15		1					
東三河北部	新城	2	2			1					8	2	1						2							

愛知県感染症情報

2005年第1週～第2週(平成17年1月3日～平成17年1月16日)(累計)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RSウイルス感染症	インフルエンザ(高病原性鳥を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	成人麻しん
計	42	259	58	263	2,539	560	41	30	146	2	0	7	1	383	1	37	0	0	9	0	0
～6ヶ月	20		4	2	22	16			13	1											
～12ヶ月	10	8	6	3	149	50	2	1	87	1				2							
0歳																			1		
1歳	8	13	12	29	349	108	11	3	41					14		1			1		
2歳	3	15	5	29	256	99	4	3	3					32		2			2		
3歳	0	21	8	32	193	91	11		1			1		47		1					
4歳	0	21	12	37	169	91	5	3				1		65		1			1		
5歳	0	20	4	45	156	47	4	3				1	1	70		3					
6歳	1	21	5	25	111	33	2	4	1			1		53	1						
7歳	0	18		11	93	10		4				1		30							
8歳	0	18	1	11	86	5		3						19							
9歳	0	12		11	72	2		3						17		1					
5歳～9歳																			1		
10歳～14歳	0	19		15	182	4	1	3				2		26							
15歳～19歳	0	9		2	89	2								1		1			1		
20歳～	0		1	11	612	2	1							7							
20歳～29歳		20														3					
30歳～39歳		24														10					
40歳～49歳		7														3			1		
50歳～59歳		7														3					
60歳～69歳		2														2					
70歳～																6					
70歳～79歳		2																			
80歳以上		2																	1		